

(トップページ:<http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(世界ランクシリーズ:<http://mylibrary.maeda1.jp/MENAranking.html>)

マイライブラリー:0575

(注)本稿は 2023 年 4 月 27 日から 5 月 7 日まで 7 回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

掲載日:2023.5.11

前田 高行

日本は世界 10 位、急伸したウクライナ:世界及び中東主要国の軍事費と武器輸出入

(世界ランクシリーズ その7 2023年版)

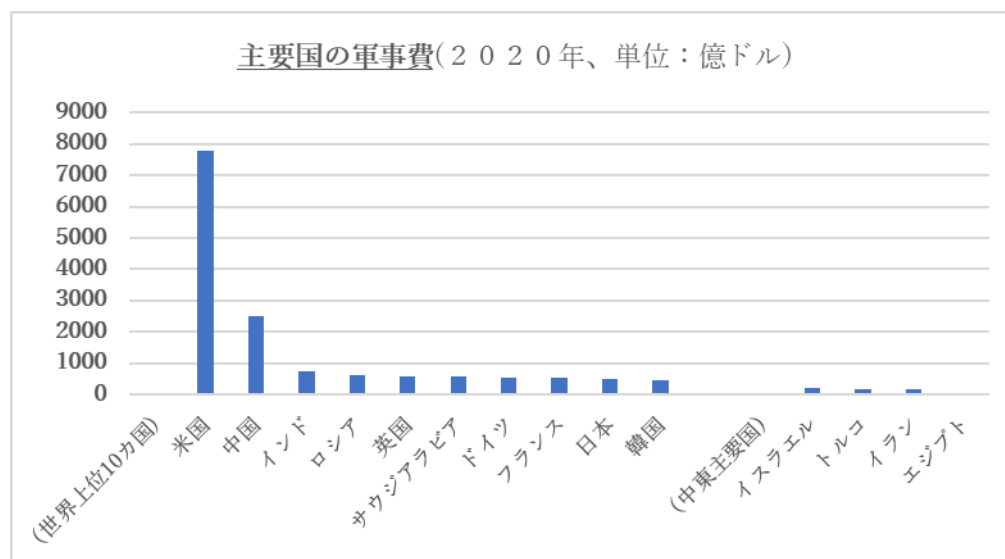
国連などの国際機関あるいは世界の著名な研究機関により各国の経済・社会に関するランク付け調査が行われている。これらの調査について日米中など世界の主要国及びトルコ、エジプト、イランなど中東の主要国のランクを取り上げて解説するのが「世界ランクシリーズ」である。

第7回の世界ランクは、スウェーデンの「ストックホルム国際平和研究所(Stockholm International Peace Research Institute, 略称SIPRI)」のホームページに発表されたデータベースの中から SIPRI Military Expenditure Database 及びSIPRI Arms Transfers Database を取り上げ、2022年の世界と中東主要国の軍事費、一人当たり支出、GDP に占める比率及び政府歳出に占める割合を比較する。また2013年から2022年までの10年間にわたる各国の武器輸出入累計額についても分析する。

* SIPRI ホームページ:<http://www.sipri.org/databases>

(圧倒的な米国の軍事費、2位中国の3倍、日本の20倍弱！)

1. 軍事費支出の比較 (末尾表 7-T01 参照)



世界で軍事費が最も多いのは米国で2022年の支出額は8,769億ドルである。同年の世界全体の軍事費は2兆2,400億ドルであり、同国だけで世界の4割弱を占めている。これに次ぐのは中国の2,920億ドルであるが、米国の3分の1にとどまっている。それでも中国の軍事費が世界に占める割合は13%であり、米国と中国二カ国を合わせると世界の軍事費の5割を超える。

これら2カ国に続くのがロシア(864億ドル)であり、世界全体の4%を占めている。4位から10位までは、インド(814億ドル)、サウジアラビア(750億ドル)、英国(685億ドル)、ドイツ(558億ドル)、フランス(536億ドル)、韓国(464億ドル)及び日本(460億ドル)の各国である。因みに日本の軍事費を他国と比べると、米国は日本の19倍、中国も日本の6倍である。また韓国は日本をわずかに上回り、昨年と順位が逆転している。

因みに日本に次ぐ11位はウクライナ(440億ドル)である。同国の2021年の軍事費は世界36位の59億ドルであり、ロシアとの戦争のため軍事費は1年間で7.5倍に増加している。紛争の一方の当事国ロシアの2021年の軍事費は659億ドルであり、こちらも1.3倍に増加している。

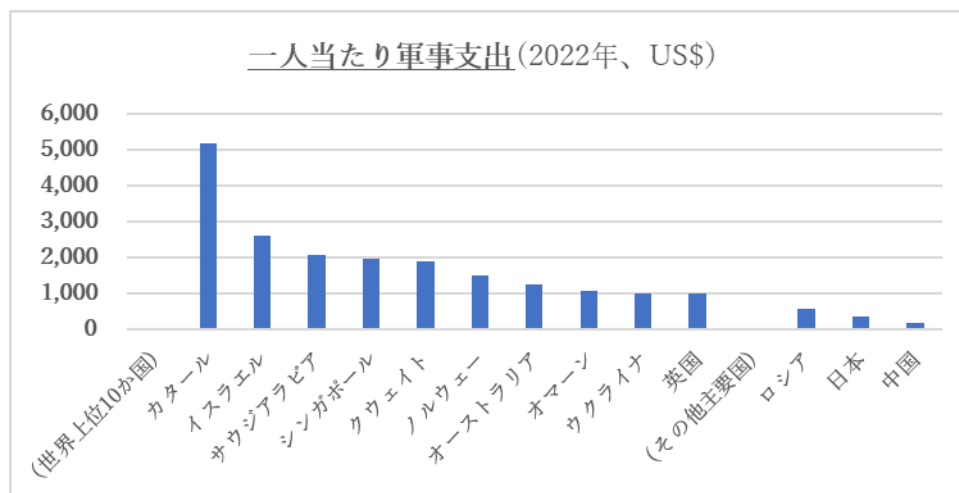
中東の主要国を見ると、サウジアラビアが750億ドル(世界5位)、イスラエル234億ドル(同15位)、トルコ106億ドル(世界23位)、イラン68億ドル(同34位)である。エジプトは中東で人口が最も多く、軍が国家権力を握っているが、経済規模が小さいため、軍事費は46億ドルにとどまっている。これはサウジアラビアの16分の1、イスラエルの5分の1であり、世界46位の規模である。

(注)UAE の軍事費について:

SIPRI の統計では UAE の軍事費は2014年以降明示されていないが、2014年以前の同国の軍事費はイスラエル、トルコ、イランを上回っており、世界10位前後に位置している。また、後述する通り2013年から2022年までの10年間の武器輸入額は世界7位の規模である。これらのことから UAE の軍事費は世界のトップテンに並ぶものとみて間違いないであろう。

(一人当たり軍事費世界一はカタールの5,172ドル、中国は202ドル！)

2. 一人当たりの軍事費



国民一人当たりの軍事費が世界で最も多いのはカタールでありその額は5,172ドルに達する。2位はイスラエルの2,623ドルでカタールの2分の1である。3位はサウジアラビア(2,093ドル)で、一人当たり軍事費が2,000ドルを超えるのはこの3カ国だけである。なお昨年データでは米国はサウジアラビアを上回る世界3位であったが、今回はデータが示されていない。

4位はシンガポール(1,966ドル)であり、以下10位まではクウェイト、ノルウェー、オーストラリア、オマーン、ウクライナ及び英国の各国である。

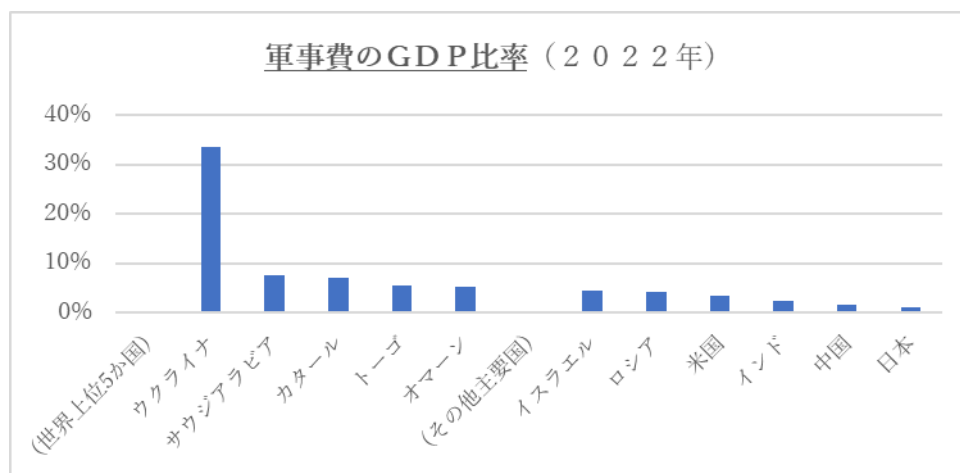
上位10カ国の顔ぶれにはカタール、クウェイト、サウジアラビア、オマーンのGCC4カ国が並んでいる。サウジアラビアを除きいずれも人口が少なく、豊富な石油収入により一人当たりの軍事費が大きい。すでに触れた通り同じGCCのUAEは今回の統計には明示されていないが、同国も人口が少なく、一人当たりの軍事費がカタールと肩を並べる世界トップクラスであることは間違いないと言えよう。

極東アジアの主要な国は韓国が14位(903ドル)に入っている。またロシアは27位(592ドル)、台湾31位(524ドル)、日本39位(366ドル)である。軍事大国中国の一人当たり軍事費は202ドルで世界53位、インドは58ドルで世界85位である。中東イスラム諸国では、トルコが124ドル(世界64位)、イラン80ドル(世界78位)、エジプトは44ドル(同99位)である。

日本の一人当たり軍事費は366ドルであるが、日本を1とした場合、カタールは14倍、サウジアラビア5.7倍、韓国2.5倍であり、一方中国は日本の2分の1、インドは6分の1である。

(ウクライナが突出、GDPの34%に達する軍事費！)

3. 軍事費の GDP 比率



各国の GDP に占める軍事費の比率を見ると、世界 1 位はウクライナであり、その比率は34%である。2位サウジアラビアの7.4%に比べウクライナは突出している。3位以下の国とその比率は次のとおりであり、12位のロシアまでがGDP比率4%を超えている。

カタール(6.96%)、トーゴ(5.44%)、オマーン(5.17%)、ヨルダン(4.84%)、アルジェリア(4.

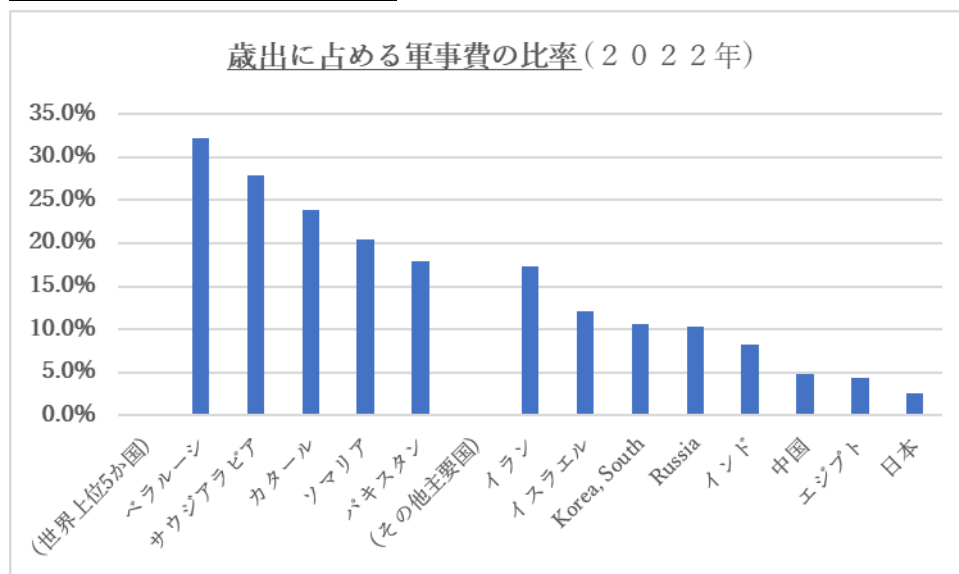
78%)、アゼルバイジャン(4.55%)、クウェイト(4.53%)、イスラエル(4.51%)、アルメニア(4.32%)、ロシア(4.06%)

上位の顔触れを見ると中東・北アフリカ(MENA)諸国が多い。これに次いで多いのがウクライナ、ロシア、アゼルバイジャン、アルメニアなど中東と隣接したユーラシア地域の国々である。紛争が多い両地域が過大な軍事費を負っている姿が浮かび上がる。中東地域の大国であるトルコ、イラン、及びエジブは軍事費総額ではそれぞれ世界23位、34位、46位であるが、GDP比率はイラン2.30%、トルコ2.06%、エジプト1.30%で、世界順位はそれぞれイラン29位、トルコ92位、エジプト107位であり、トルコ、エジプト両国は軍事費のGDP比率が世界の中でも低い。

その他の主要国を見ると米国は3.45%、韓国2.72%、インド2.43%、中国1.60%などである。日本のGDP比率は1.08%、世界106位であり欧米先進国の中でも最も低い水準にとどまっている。

(ロシア支援国ベラルーシは歳出の3分の1が軍事費！)

4. 歳出に占める軍事費の比率



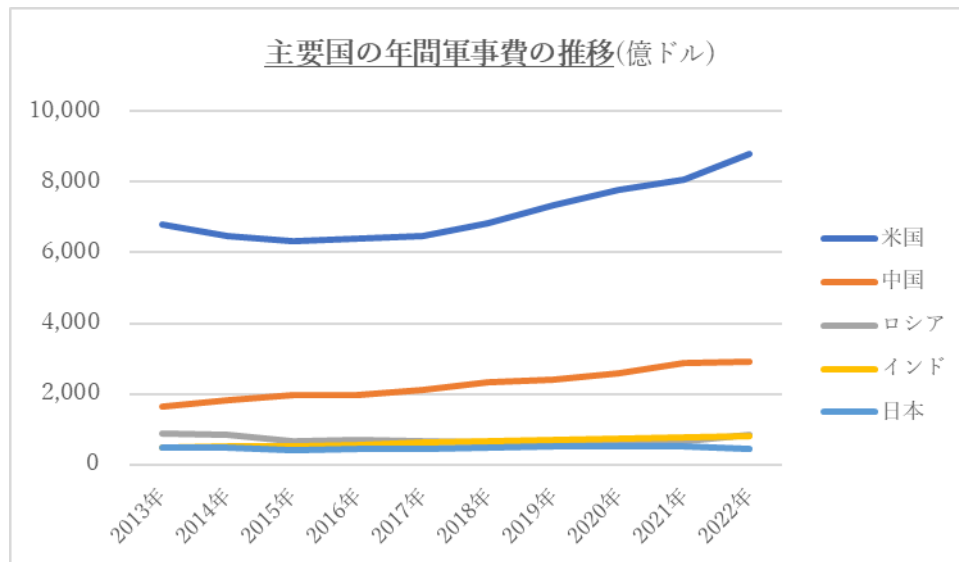
次に歳出に占める軍事費の比率を見ると、世界1位は東欧の独裁国家ベラルーシであり、同国は歳出の3分の1を軍事費に充当している。第2位から第4位にはGCCのサウジアラビア(27.79%)、カタール(23.84%)及び北アフリカのソマリア(20.37%)であり、これらの国々の軍事費は歳出の20%を超えている。サウジアラビアの軍事費は金額で世界5位、一人当たりでは世界3位、GDP比率では世界2位である(1~3節参照)。世界最大の産油国の一つである同国は軍備に金を惜しまない国であることを示している。

その他主要国の比率を比べると、イランは世界9位の17.32%、イスラエル12.17%、韓国10.57%、ロシア10.35%が10位台後半から20位台に並んでいる。インドは8.26%であり、トルコ4.40%、エジプト4.34%である。軍事費総額で米国に次ぐ世界2位の中国は歳出に占める比率は4.79%で世界66位にとどまっている。日本は2.53%であり、これは世界123位に相当する。

世界的に見ると日本の軍事支出は少ないと言えよう。なお米国はデータが示されていない。

(10年前に比べ中国は1.8倍、インド1.7倍増、日本は減少！)

5. 主要国の軍事費の推移(2013年～2022年)



主要国の過去10年間(2013年～2022年)の軍事費の推移を比較すると、2013年の軍事費は米国が6,792億ドルで最も多く、これに次ぐのは中国の1,641億ドルであった。米国と中国の1,2位は10年間変わっていないが、両国の格差は2013年の4.1倍から2022年には3.9倍に縮小しており、中国の軍事費が急速に膨張していることがわかる。

米国の軍事費は2013年以降2015年までは減少したが、その後は年々増加し2021年には8千億ドルを超え2022年には8,769億ドルに達している。これに対して中国の軍事費は年平均7.8%増加、2017年には2千億ドルを突破、2022年は2,920億ドルと10年間で1.8倍に増加している。

インドも中国と同様毎年軍事費は増加し2013年の474億ドルから2022年には1.8倍の814億ドルに増加しており、世界順位も8位から4位に上がっている。

これら3カ国に対して日本の軍事費は減少傾向にある。2013年の軍事費は490億ドルであり、その後2019年から2021年までの3年間は500億ドル台に増加したが、2022年には460億ドルに減少、10年前の水準を下回っている。この結果10年前は世界7位であったが、2022年の世界ランクは10位である。

ロシアの2013年の軍事費は884億ドルで米国、中国に続く世界3位の軍事大国であった。2015年には664億ドルに急減、その後2021年までは600億ドル台にとどまった。しかし2022年には再び864億ドルに急増している。ウクライナ侵略戦争によるものである。

英、仏、独とイタリアの西欧4カ国及び韓国は軍事費世界ランク上位の常連国であるが、2013

年と2022年の金額と世界ランクを示すと以下のとおりである。

英国:	638億ドル(2013年、世界5位)	→	685億ドル(2022年、同6位)
フランス:	520億ドル(2013年、世界6位)	→	536億ドル(2022年、同8位)
ドイツ:	442億ドル(2013年、世界9位)	→	558億ドル(2022年、同7位)
イタリア:	300億ドル(2013年、世界12位)	→	335億ドル(2022年、同12位)
韓国:	343億ドル(2013年、世界10位)	→	464億ドル(2022年、同9位)

また中東の軍事大国サウジアラビア、イスラエル、トルコ、イラン及びエジプト5カ国について同様の傾向を見ると次のとおりである。

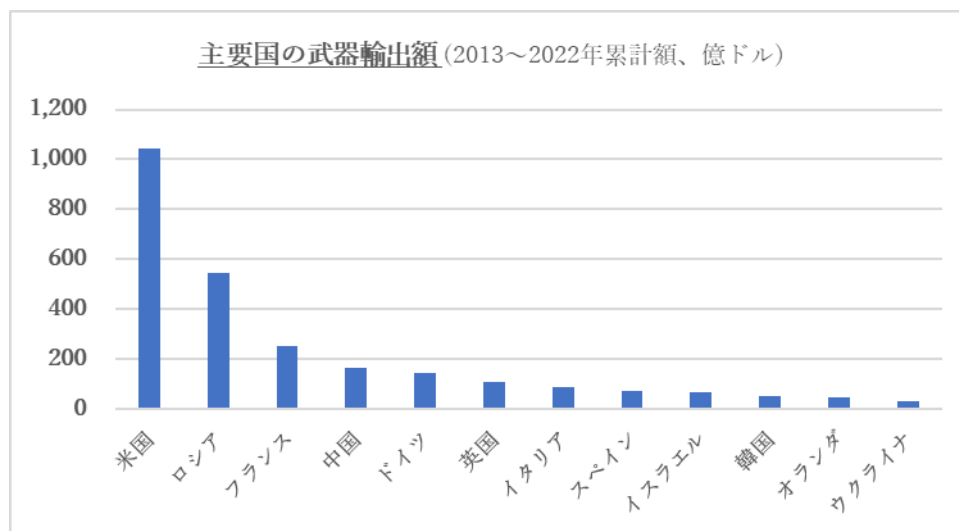
サウジアラビア:	670億ドル(2013年、世界4位)	→	750億ドル(2022年、同5位)
イスラエル:	162億ドル(2013年、世界18位)	→	234億ドル(2022年、同15位)
トルコ:	184億ドル(2013年、世界16位)	→	106億ドル(2022年、同23位)
イラン:	120億ドル(2013年、世界20位)	→	68億ドル(2022年、同34位)
エジプト:	44億ドル(2013年、世界43位)	→	46億ドル(2022年、同46位)

6. 世界の武器輸出国と輸入国

ここでは世界の武器の輸出入額を取り上げる。各国の輸出額あるいは輸入額は年度によって大きく変動するため、2013年から2022年までの10年間の累計額について比較検討を行う。

(世界の二大武器輸出国—米国とロシア！)

(1) 主要国の武器輸出額(2013年～2022年累計額)



2013年から2022年までの10か年間の武器輸出累計額は世界全体で約2,800億ドル強であり、年間平均では284億ドルになる。国別では米国とロシアが際立って多く、米国の10年間の輸出総額は1,041億ドル、ロシアは547億ドルであった。世界全体に占める割合はそれぞれ37%及び19%であり、2か国を合わせると世界の武器輸出額の6割近くを占めている。

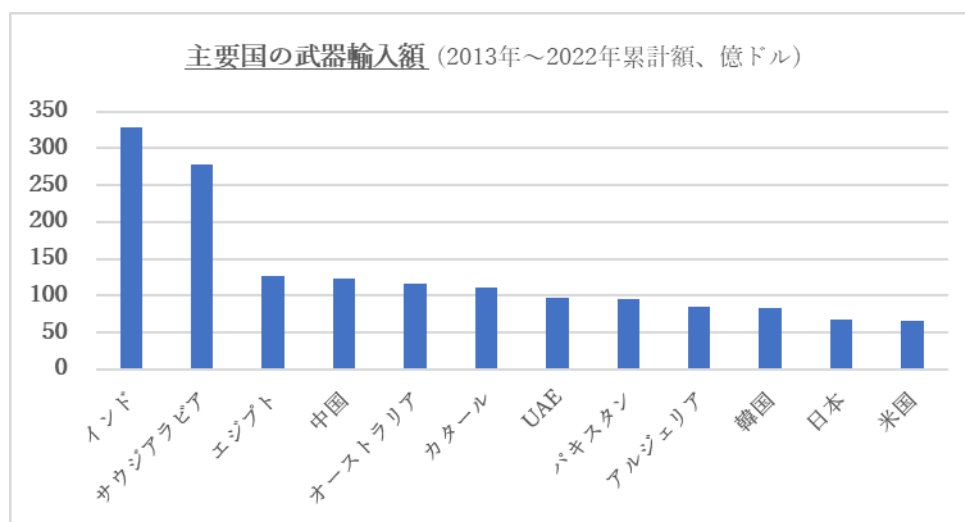
米国、ロシアに次いで輸出額が多いのはフランスの252億ドルであるが、米国あるいはロシアの

2乃至4分の1にとどまっている。これら3カ国に続いて累計輸出額が100億ドルを超えているのは中国(164億ドル)、ドイツ(146億ドル)、英国(112億ドル)である。なお次項(輸入額)に触れるとおり中国は輸入額でも世界第4位であり武器貿易大国である。

武器輸出額7位から10位はイタリア、スペイン、イスラエル及び韓国である。上位10か国のうちEU諸国が半数の6カ国を占めており、EUは世界的な武器生産地域であることがわかる。なお上位10カ国は戦闘機、艦船、戦車、ミサイルなど高額な兵器を得意としているため輸出額が膨らんでいる。しかし世界の多くの紛争地域では小銃、機関銃、地雷、ロケットなど小型火器が使われている。その意味ではウクライナ(輸出総額32億ドル、世界12位)、トルコ(同25億ドル、世界13位)などは、米国あるいはロシアに比べ金額的には少ないが影響力は小さくないと言えよう。このうちトルコは攻撃型 UAV(ドローン)の輸出に力を入れているが、このような比較的安価な IT 兵器は今後トルコを含めた開発途上国の有力な輸出商品になるものと思われる¹⁾。

(武器輸入額ではインドが世界一、日本は世界11位！)

(2) 主要国の武器輸入額(2013年～2022年合計額)



2013年から2022年までの10か年間の武器輸入累計額は世界全体で約2,800億ドルであった。国別ではインドが最も多く同国の輸入累計額は327億ドル、世界全体の12%を占めており、輸入国第2位はサウジアラビアの278億ドル、世界シェアは10%である。因みにインドの輸入相手国はロシアが最も多く全体の55%を占め、次いでフランスである。サウジアラビアの場合は68%を米国が占めている。

第3位はエジプト、第4位中国である。中国の過去10年間の武器輸入累計額は123億ドルであるが、前項でも述べた通り同国は輸出額でも世界第4位であり、武器貿易が活発なことを示している。中国に次いでオーストラリア及びカタールが輸入累計額100億ドル(年平均10億ドル)を超えている。7位から10位は UAE、パキスタン、アルジェリア及び韓国でその額は90～80億ドル(年平均9～8億ドル)である。因みに日本の過去10年間の武器輸入累計額は67億ドル、年間平均7億ドルであり、韓国に次いで世界11位に相当する。日本の場合、軍事費(2022年、460億ドル、第1項参照)に比べ輸入額の割合が小さいのは武器の国産化が進んでいるためと考えられる。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601

E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

軍事支出ランキング (2022 年、at Current Price)

2022 年 順位	2021 年 順位	国名	金額 (百万ドル)	(%)	日本=1
-	-	全世界	<u>2,239,871</u>	100.0%	
1	1	米国	876,943	39.2%	19.1
2	2	中国	291,958	13.0%	6.3
3	5	ロシア	86,373	3.9%	1.9
4	3	インド	81,363	3.6%	1.8
5	6	サウジアラビア	75,013	3.3%	1.6
		上記以外の主要国			
6	4	英国	68,463	3.1%	1.5
7	8	ドイツ	55,760	2.5%	1.2
8	7	フランス	53,639	2.4%	1.2
9	10	韓国	46,365	2.1%	1.0
10	9	日本	45,992	2.1%	1.0
11	36	ウクライナ	43,998	2.0%	1.0
21	20	台湾	12,509	0.6%	0.3
		中東主要国 *			
15	14	イスラエル	23,406	1.0%	0.5
23	17	トルコ	10,645	0.5%	0.2
34	39	イラン	6,847	0.3%	0.1
46	43	エジプト	4,646	0.2%	0.1

Source: SIPRI、ストックホルム国際平和研究所

* UAE はデータなし。

i レポート「[中東に広まるドローン\(UCAV\)の開発と軍事利用](#)」参照。